

私たちの

ふる里

第三集

まつり特集



第三集 まる特集

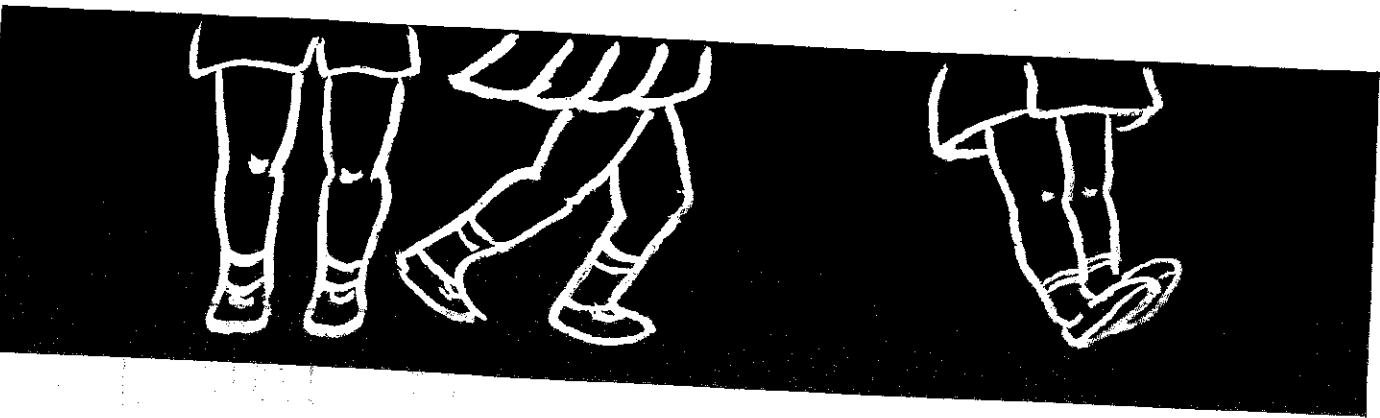
私たちのふる里

加高町立西神若小学校 PTA



もくじ

1.	西神吉町地図	ページ
2.	はじめに	1
3.	より身近な史料として	2
4.	第三集の発刊によせて	2
5.	年間のまつり一覧	5
6.	石の宝殿生石神社	7
	岸の秋まつり今・昔	18
	辻の秋まつり	20
	神吉八幡神社	22
	まつりの思い出	41
8.	各地区のまつり	48
	辻	48
	岸	51



年間のまつり一覽

月日	昔のまつり	地区名	掲載ページ	昭和六十年度	今のまつり	地区名	掲載ページ
一月十四日	とんど	大 国	66	一月十四日	とんど	辻	48
春の彼岸	こいとく(涅槃会) おしゃかのかんかん	中 西	73	"	"	岸	
四月八日	長慶・天王山の祭り	清 水	78	一月十五日	"	富 木	83
四月十一日		長 慶	85	一月十五日	算 額 祭	清 水	80
六月一日	岸・大歳神社まつり	岸	52	四月二十八日	国 恩 祭	生石神社	16
六月十五日	岸・権現神社まつり	岸	52	四月二十九日	岸・大歳神社まつり 宵宮	神吉八幡	82
六月末日	清水・大歳神社まつり	清 水	78	六月二十八日	まつり宵宮	岸	54
六月三十日	湯 だ て			二十九日	六月末の 昼宮		
七月一日	ハッチョサン (八王子神社)まつり	神吉八幡	40 64 76 81	七月十一日	長慶・薬師堂まつり	長 慶	86
七月十日	長慶・薬師堂まつり	西 村	71	七月十二日	岸・熊野権現まつり (七月第二金・土曜日)	岸	56
七月十一日	西脇・大歳神社まつり	長 慶	85	七月十三日	宮前夏まつり (七月第二土・日曜日)	宮 前	77
七月十三日	清水・観音さんのまつり	西 脇	83	七月十三日	西村・ハッチョサン (七月第二土・日曜日)	西 村	73
七月十四日	宮前・夏まつり	清 水	79	七月十四日	西脇・大歳神社まつり	宮 前	77
七月十五日	長慶・天王山まつり	宮 前	75	"	辻・地神さんまつり	西 脇	84
七月十七日		長 慶	85	七月十四日	富木・観音まつり	辻	49
七月十八日				七月十七日	長慶・天王山まつり	富 木	83
八月一日	八朔・神吉八幡神社まつり 当番準備始めの日		82	七月十八日	(七月末・八月初、その年に決める)大國子供ずもう	大 国	70

八月七日	西村の七夕まつり	西村	71
"	長慶の七夕まつり	長慶	86
八月二十三日	地藏盆	辻	50
二十四日	"	大國	58 70
(旧) 二十二日	" 宵宮 "	西脇	84
(旧) 九月二十三日	神吉八幡神社まつり 明治維新前	神吉八幡	22 29
十月十四・十五日	" 宵宮 戦後		35 47
十月十五日	" 宵宮		
十月十六日	" 裏宮 大正初年頃		
十月十七日	" 宵祭		
十月十六日	" 宵宮 大正終りから 戦前まで		
十月十七日	" 昼宮		
十月十八日	生石神社宵宮	生石神社	7 17
十月十九日	" 昼宮		
(旧) 十二月一日	未明に氏神に参拝する (鳥の鳴かぬ間……)	神吉八幡	81
(旧) 十二月末日	パチパチたき	中西	74
八月十七日	大國団地盆踊り	大國団地	89
八月二十三日	辻 地藏盆	辻	
二十四日	大國 " "	大國	
九月十五日	富木 " "	富木	
	岸・熊野権現まつり	岸	56
十月五日	神吉八幡神社宵宮 十月初 の土・日曜日	神吉八幡	31 34
六月	" 昼宮		
十月十九日	生石神社宵宮 十月第三 土・日曜日	生石神社	18 21
十月二十日	大西団地の秋まつり	大西団地	88

神吉八幡神社

○ 由 緒 (ゆいしよー伝えてきた事由)

神吉八幡神社の由緒については「私たちのふるさと第一集」に載っておりますが簡単にもう一度記しますと、祭神は菅田別命 (ほんだわけのみこと) すなわち応神天皇です。応神天皇と言えは神功皇后 (じんぐうこうごう) と共に九州から大和に攻め入り即位した第十五代の天皇で一説には実在した最初の天皇とも言われています。武勇の神様として、また祖先崇拜の神様として昔から広く国中の人々の信仰を集めている神様です。

一三九六年 (応永三年一室町時代初期) に大国村に一社を創建し、妙見大明神と称して神吉莊十一ヶ村 (神吉村・天下原村・大国村・宮前村・下富木村・清水村・西脇村・長慶村・西村・中西村・磯部村) の氏神としました。ところが一四四一年 (嘉吉元年) の嘉吉 (かきつ) の乱 (赤松満祐が將軍足利義教を謀殺し播磨に走る。三ヶ月後満祐自殺) の時に大國の社殿がごとく焼かれてしまいました。それで一四六八年 (応仁二年) に景行天皇の行宮 (あんぐう) の地であったとも言われている現在の宮前の地に社殿を移しました。そして大國の元の地を御旅所 (神社の祭礼に、みこしが本宮か

ら渡御して仮にしばらくとどまる所) としました。一六三二年 (寛永九年一江戸時代初期) 十一月、雷のため社殿やその他の建物が全焼しました。印南郡誌によれば「火を失して全部焼失」と書いてあります。一六八三年 (天和三年) に社殿を再建し現在に至っています。明治維新の際、神仏混淆 (こんぶけんじょう) が国固有の神の信仰と仏教信仰とを融合調和すること。奈良時代に始まり、神宮寺・本地垂迹説などはその現われ。を禁ぜられましたので、それまで妙見大明神と称しておりましたものを八幡神社と改称しました。明治七年二月に村社になり、昭和五年十月には郷社に昇格しました。大正三年に書かれた「神吉雜囊録」に次のように記されている

